

《秋号》

2020. 10. 15

あゆみ

Vol. 73

<発行>

社会福祉法人大阪府肢体不自由者協会
 大阪府肢体不自由児者父母の会連合会
 〒540-0006
 大阪市中央区法円坂一丁目1番35号
 アネックスパル法円坂内
 TEL 06 (6940) 4181 FAX 06 (6943) 4661
 E-mail: info@daishikyo.or.jp
 ホームページ: http://www.daishikyo.or.jp

大肢協
インタビュー

未来につなぐ想い、願い (Vol.2)

インタビュー：貴島裕氏・山田昌子氏(法人本部元職員)
 インタビュアー：大肢協事務局次長 野間田・大肢連事務局 朝倉

2回目のインタビュー企画は、昭和40年代から昭和50年代に職員として活躍された貴島裕さんと山田昌子さんにお話を伺いました。この時代は、任意団体として設立された協会が、法人格を取得して色々な活動を展開していった時代です。

当時の時代背景として、昭和29年から昭和45年にかけては高度経済成長期にあたり、昭和39年の東京オリンピック、昭和45年の万国博覧会を経て、昭和56年の国際障害者年へと続いていきます。

大阪府肢体不自由者協会の誕生は、そんな高度経済成長の中、昭和30年5月11日に任意団体として設立し、昭和44年4月14日に社会福祉法人としての認可を得ました。

貴島裕さんは、ご自身も体が弱く、体の不自由な人のために働きたいということで、昭和40年協会へ入職されました。入職した時は、まだ「大阪府肢体不自由児協会」だったとのこと。協会では、「訓練療育センター事業」や交野自立センターの庶務課長、大阪市の作業所巡回指導など、実に46年の長きにわたり協会と法人の活動を支えていただきました。

現役を退いた後は、絵画や写真を展覧会に出品したり、新聞への投稿等続けておられます。

山田昌子さんは、昭和56年協会へ入職されました。入職のきっかけは、協会で会計の職員を探している折に、「友の会」や守口市父母の会の副会長だった縁もあって働き始めたとのことでした。設立前の交野自立センターの設立準備室に何度も通ったとのことでした。以降協会では、30年以上にわたり、経理だけでなく、結婚相談事業やぴょんぴょん教室、療育キャンプなど様々な事業に係わってこられました。現在は、菊の栽培、型押し、NALC(ニッポン・アクティブライフ・クラブ)の活動など、多彩な才能で今も現役で活動中です。



つくし教室 昭和44年(1969年)



万国博覧会 昭和45年(1970年)



協会常勤職員 平成7年(1995年)

昭和40年代 任意団体から社会福祉法人へ

貴島さんが入職された昭和40年代は、協会が療育キャンプや療育センター事業など様々な活動実績を経て、任意団体から社会福祉法人としての社会的な地位を確立していった時期でした。

当時は、東京オリンピックを経て万国博覧会が開催された時期で、社会的には、大変活気のあった時代でしたが、障害児を取り巻く療育のための早期発見・早期療育の社会資源は、未整備の状態でした。以下貴島さんから寄せられた手記を引用します。

訓練療育センター事業、療育キャンプ、つくし教室、養護教育義務制へ

「とりわけ忘れられないのは昭和40年代で、半世紀以上前のことになりますが、まだ車いすやボランティアという言葉さえ珍しい時代でした。当時は、脳性マヒ児の早期発見、早期治療、訓練が叫ばれていたものの、対応できる場が皆無に等しい深刻な状況でした。協会の基盤はまだ弱く、事業を行うために絵はがきの頒布、チャリティボックスの設置、寄付金集め、チャリティバザーの開催など、運営資金を捻出するために毎日奔走しました。

その一方で、大阪府立青少年会館内の中央療育センターで療育指導、訓練を実施。

その後、相次いで府下と大阪市内に療育センターを設置。専門医として大阪大学整形外科(水野祥太郎先生)・大阪市立大学整形外科(小谷勉先生)・大阪府立身体障害者福祉センター(田村春雄先生)・

大阪府立更生相談所(沢田啓祐先生)のご指導をいただいたことは本当に心強いことでした。

また、大阪府委託の家庭訪問指導事業は在宅肢体不自由児の発見、関係機関への連絡、家庭における療育についての相談、助言などを行い協会事業の重要なひとつでした。これらの事業のほかに、滋賀県近江八幡のびわ湖岸に専用の療育キャンプ場を設置し、毎年夏に小学生、中学生、青年、家族などに分け、さまざまなキャンプを実施し、自立・社会参加の促進に努めました。キャンプは昭和60年代まで続きました。

子ども達が次第に成長していく中で、重度肢体不自由児の悩みは就学問題でした。障害が重度という理由で多くの子ども達が養護学校(現在は支援学校)へ入ることが出来ずに、就学猶予・免除になったことです。教育の機会均等を奪われた子どもと親にとっては深刻な問題でした。やむにやまれず、協会は「つくし教室」という特殊学級を開設(昭和44年5月)するとともに父母の会と連携・協力し就学猶予・免除返上の署名活動、大阪府・市ならびに府市教育委員会へ陳情活動を繰り返しました。その後、大阪市内3校、府下7校に特殊学級が設置され、それは養護学校の増設にもつながり、ようやく昭和54年4月養護教育の義務制が実現することになります。

協会は折々に先駆的、開拓的に事業を行ってきましたが、それは行政を動かす力にもなりました。」

(2頁へ続く)

付け加えますと、昭和34年4月から法人が独自に始めた「訓練療育センター事業」の利用児は、昭和44年4月時点で大阪府下16センターに378名おり、そのうち就学適齢児は、91名であったと記録されています。

また、「つくし教室」の教育指導は、大阪教育大学の教授(高木俊一郎氏、猪岡武氏)、医療指導は、大阪大学、大阪市立大学医学部整形外科の教授、指導介助は、協会婦人ボランティア15名で実施されたと記録されています。

資金造成、万国博覧会、国際障害者年

(再び貴島さんの手記を引用します。)

「この他、協会65年の歴史の中で思い出されるのは、昭和45年3月15日から9月15日までの半年間、大阪千里で開催された「万国博覧会」と昭和56年の「国際障害者年」です。万国博覧会では、期間中ゲートで車いすの貸し出しと会場内で資金造成のために記念メダルの販売を行いました。また、国際障害者年では障害者の生活用具や自具の展示を阪神百貨店で開催。国を挙げての二つのイベント

は、障害者の自立と社会参加を促進し、一般の人達の障害者理解を深めるまたとない重要な機会でした。国際障害者年は、その後の交野寮の経営と大阪府立交野自立センターの誕生につながるものになりました。

昭和から平成に入ると、各地にグループホームや福祉作業センターが増え、協会は大阪市の委託を受けて福祉作業センターの巡回指導を行うようになりました。そこでの作業内容はそれぞれ異なりますが、仲間とともにお互いに助け合い、生活や作業に生きがいを見だし、日々元気に励む成人肢体不自由者の生き生きとした姿を見るのは嬉しいことでした。」

記念メダルとペンダント販売は、大変多くの収入があったようで、記録によると諸経費を引いて4000万円の収益があったそうです。

また、資金造成で忘れてならないのが、協会のバザーです。父母の会と共同で毎年盛大に開催されていました。

山田さんも提供物品を集めるために、色々な問屋さんや会社に直接訪問して物品集めに奔走されたようです。

(次号に続く)

大肢連 「大阪府肢体不自由児者父母の会連合会」の歩み ～大肢協の歴史とともに～

昭和28年、肢体不自由児父母の会が大阪市と堺市で結成されました。その後、府内各市区町村で結成が相次ぎ、昭和39年に連合会組織として『大阪府肢体不自由児者父母の会』ができました。

大阪府肢体不自由者協会と共に障害児の療育訓練の実施や養護学校づくりなどに取り組み、福祉・医療・教育の充実に力を尽くしてきました。

住吉区肢体不自由児者父母の会の会長であった故島中三郎氏の備忘録にも以下の文章がありました。

「昭和40年頃、大阪府厚生会館ができ、その5階に大阪府肢体不自由児協会が入りました。“つくし教室”を開き、肢体不自由児の教育指導や医療指導(訓練等)を始めました。

自分の地域でも“つくし教室”のような訓練所をつくってほしいと医者をしていただいた私の兄にお願いしたら快く引き受けてくれ、診療所の3階に協会の住吉療育センターとして訓練所を開所。住之江区、阿倍野区、住吉区の肢体不自由児に訓練をしました。

また当時、大阪には府立堺養護学校と大阪市立光陽養護学校しかなく、重度の障害児は入学できませんでした。就学猶予届や

就学免除届(※)を教育委員会に出すことを肢体不自由児をもつ親御さん達とともに拒否し、重度の障害児の教育方法を教育委員会等に相談、住吉療育センターでも教育指導方法を研究し、そのおかげでついに、昭和45年に大阪市内の4小学校に“特殊学級”ができ、地域での障害児教育がスタートしました。」

このように、当時は訓練施設も少なく、学校に通うことすら叶わなかったため、地域の父母の会および連合会(昭和45年に大阪府肢体不自由児者父母の会連合会に改名)が、養護学校づくりや日中活動の場について研修会や要望活動をしてきました。

現在、障害者福祉もかなり向上しましたが、まだまだ生活するうえで困難なことだらけです。どんな障害があっても地域で当たり前のように暮らせるよう今後も、大阪府や国へ声をあげ、障害児者の自立や社会参加を進めていきます。

※就学猶予・就学免除とは…教育委員会が学齢期に達した子の保護者に対し、その子を学校に就学させる義務(就学義務)を猶予または免除することである。日本では学校教育法第18条がこれを定める。

大肢協 カフェの新メニューをぜひお試しください!

オーガニックコーヒーとヘルシーランチのお店 **café shade tree**

なにわの宮就労継続支援B型「café shade tree」は10月1日をもちまして開店5周年を迎えることとなりました。日ごろのご愛顧に感謝申し上げます。

さて、カフェシェードツリーでは5周年特別企画としてコーヒーセミナーを期間限定で無料開催いたします。

コーヒーマイスターの資格を持つスタッフが、コーヒーのおいしい淹れ方の紹介及び、体験をしていただく内容となっております。日時、定員等の詳細は当店にお問い合わせください。

他にもオムライス(ホワイトソース)や製菓「ベルギーワッフル」「パウンドケーキ(チョコ)」などの新商品を新たにメニューに加えたり、お得なギフトセットもご用意いたしました。

お近くにお越しの際はぜひ当店にご来店くださいませ。



オムライス(ホワイトソース)



ベルギーワッフル

カフェでは定期的にコーヒー教室やアコースティックギター弾き語りライブ等のイベントを開催しています。また、お得なギャラリースペースもご用意しています。詳細については、下記カフェ電話番号からお問い合わせ願います。

	住所: 大阪市東成区中道3-15-16 毎日東ビル1階
	TEL/FAX: 06-4307-6558 営業時間: 9:30~17:30 ランチタイム: 11:00~14:00 定休日: 日曜日・月曜日
・JR環状線 玉造駅下車 東へ徒歩3分 ・地下鉄鶴見緑地線 玉造駅下車 4番出口 東へ徒歩5分	

大肢連

大阪府へ要望書を提出しました！

障害のあるわが子が、新型コロナウイルスに感染したら入院できる病院はあるのか？親が感染したら、濃厚接触者である子どもの世話を誰にお願いしたらよいのか？など私達親や家族は、日々不安のなかで生活しています。

今年度は、8月に新型コロナウイルス関連はじめ下記の要望項目を大阪府へ提出いたしました。感染防止のため応接はなく文書回答をいただきますが、昨年と同じ回答にならないように、1項目でも進展するように願うばかりです。

【福祉関係】

- 1 重度障害者（医ケア含む）のグループホームを整備してください。
親の高齢化、入所施設の建設もない等の理由で、重度障害者（医ケア含む）のグループホームは、今後ますます必要になってきます。誰でも住み慣れた地域で安心して暮らすことが当たり前のことであるのに、どうしてグループホームの整備が進まないのか教えてください。
- 2 ショートステイを整備してください。
医療的ケアの必要な方のために、府では「医療型短期入所支援強化事業」とし医療機関でのショートステイを進めていただいておりますが、私たちが希望する事業所での受け入れは一向に進んでいません。
事業所への制度の説明を徹底し、事業所より制度の不備を聞き取り、看護師配置を基準に整備が進むよう制度の改正等を行ってください。
- 3 移動支援事業は、市町村事業の地域生活支援事業のため、大きな地域間格差が生じています。地域格差をなくし障害者本人が利用しやすいよう、また充実した地域生活が送れるように府として対応してください。
- 4 医療型障害児入所施設（重心施設）を各福祉圏域につくってください。
医療型障害児入所施設（重心施設）は、24時間支援が必要な重心の方にとって絶対必要なものです。国は入所施設は真に必要な場合には整備するとの考えを示しています。何が課題なのか、設置に向けた具体的な道筋を示してください。

- 5 「大阪府福祉のまちづくり条例ガイドライン」を緩和し、新規に施設をつくる場合は、床面積に関係なく、公共施設のトイレ内に大人用介護ベッドの設置をお願いします。また横抱き介助を可能にするため便器サイドの手すりを可動式にしたり、両サイドにスペースを設ける等の整備をお願いします。

そして、トイレ表示と共にベッド表示もしてください。ベッドのない時の救護室等利用のご配慮をお願いします。

- 6 補装具費の支給について、2台目の車椅子やその修理代も内容に入れてください。貸し出される補装具では体に合わず使うことができません。また手続きの簡素化も図ってください。

私たちが日常使う車椅子は既存のものではなく個々の障害に対応したものです。毎日使うものであるため、壊れることも多く、修理が必要となります。修理にもかなりの日数がかかり、たちまち生活に支障がでます。装具についても同様であり、貸し出される一般品では身体に合いません。これでは、障害者の困難を取り除き必要な調整を行う「合理的配慮」に欠けています。

【教育関係】

- 1 医ケアの必要な児童の通学支援事業が昨年度よりモデル事業として始まりましたが、現在の府内各支援学校での対応や事業の進捗状況を教えてください。

【コロナ関係】

- 1 障害児者やその保護者が新型コロナウイルスに感染した場合、府としてどういう対応を考えているのか教えてください。
- 2 感染予防に必要な物品を必要な障害児者に確実に届くようなシステムの構築をお願いします。
- 3 災害発生時においては、まず一次避難所に避難することになりますが、基礎疾患をかかえている障害児者にとっては濃厚接触となる不安がぬぐえません。
新型コロナウイルス感染症を契機として、避難所開設当初から障害者専用プースの設置を検討してください。

★ 共に乗り越えよう ★

大肢連

全肢連さわやかレクリエーション

かつらぎ温泉八風の湯にて「お楽しみ交流会」開催！
～和泉市手をつなぐ親の会～

9月10日(木)、コロナ禍の中で密にならないように参加人数を少数にし、マイクロバス2台を利用、マスクの着用や手指消毒など感染予防対策をしっかりと取りながら「お楽しみ交流会」を和歌山県伊都郡にあるかつらぎ温泉にて開催しました。

講師2名、参加者9名で実施しました。

研修会では訪問看護の利用方法やサービス内容などを、ご自身も障がい児の母である看護師より丁寧にお話していただきました。また、長く障がい児者施設に関わってこられたセラピストからは家庭でのリハビリとはどういうものか分かりやすくお話していただきました。障がい者診療を行っているクリニックの紹介や質疑応答と中身の濃いものとなりました。

美味しいお食事の後のフリータイムでは、初の試みである温泉に入り自粛疲れを癒すことができました。

日頃あまり会うことのない会員さんと交流し情報交換もでき、お土産屋さんで買物も楽しんでリフレッシュできた1日でした。

大阪府
受託事業

日帰りレクリエーション

大阪観光で再発見！「月化粧ファクトリー」

去る10月3日(土)、リフトバス2台37名で阪南市にある「月化粧ファクトリー」へ行ってきました。工場見学のと焼きたてのお饅頭の試食をし、買い物を楽しみました。

ランチは、ホテル日航関西空港2階の豪華な中華料理食べ放題で、食欲の秋をいっぱい満喫しました。

コロナ禍のため、何ヶ月も遊びに行くことができず、辛抱されていた会員の皆さんが、やっと仲間で行くことができとても楽しそうでした。もちろん参加人数をいつもの半分にし、感染予防対策をしっかりと取りながらの制限のある行事でしたが、1日楽しむことができました。

参加者の感想

- ★こんな近場で、手軽で安全な大阪、再発見です。(和泉市)
- ★今年初めての旅行、全部行事が中止になっていたのが本当に楽しかったです。(港区)
- ★焼きたてのお饅頭が美味しかった。(港区)
- ★お菓子工場はとてもきれいでした。ホテルのランチもおなかいっぱい食べて満足でした。(福島区)



大肢連

全肢連さわやかレクリエーション 『親・家族交流会』のご案内

8月4日に開催する予定でしたがコロナの影響で延期となり、再度のご案内となりました。

コロナ対策をしっかりとっているホテルの51階会場にて、食事をしながら会員同士の交流を図りたいと思います。多数ご参加お待ちしております。

と き 10月27日(火) 11:30~13:00

★集合…オーク200アトリウム 11:10

会 場 アートホテル大阪ベイタワー51階 スカイピュッフェ
(JR弁天町駅北口・大阪メトロ中央線弁天町駅西改札)

参加費 お一人 2,000円

定 員 70名

(定員に達しなくても開催いたします。その場合、他のお客様もご入場されることがあります。)

ありがとうございました!!

大肢協

●下記の通り、寄贈いただきました。

これらは当協会が実施する障害福祉サービス等事業に活用させていただきます。ありがとうございました。

- ・株式会社エスポワール様 マスク900枚
- ・株式会社明成 代表取締役 山口由希様 マスク900枚
- ・株式会社オーシス総研様 ノートパソコン1台
(はじまるくんパソコン寄贈プログラム)

大肢連

ーから手作りで作っていただきました。心のこもった手作り製品の寄贈ありがとうございました。

- ・真韻株式会社様
- ・慶応大学理工学部 海老根優菜様
- マスク120枚・フェイスシールド 110セット

販売

食欲の秋においし〜い

鳥手のちゃんぽん・血うどん詰合せ
各4袋(化粧箱入)

2,916円(税込) ⇒ 特別価格で

★ご注文は各市父母の会または大肢連事務局まで。
TEL06-6940-4181 FAX06-6943-4661



【大肢協ご協力深謝】
(順不同、敬称略)
令和二年七月一日、
九月三十日現在

寄付金 一三二、四二九円

株式会社岡田本社
株式会社エスポワール
株式会社オーシス総研
社会貢献活動推進室

大阪新阪急ホテル
小鯛雀 すすし 萬
リーガロイヤルホテル店
ホテルグランヴィア大阪
「ラウンジリバーヘッド」

大阪府
受託事業

日帰りレクリエーションのご案内 『みかん狩りと美味しいすき焼き』

新型コロナウイルス感染防止のため、郊外でのレクリエーションとなりました。楽しい1日を過ごしましょう。ご参加お待ちしております。

日程① 11月21日(土) リフト付きバス1台

日程② 11月28日(土) リフト付きバス2台
※どちらか選んでください。

場 所 新樹園(岸和田市)

定 員 各日30~40名

※バス座席数の約半数で考えています。



★詳細は各父母の会または事務局まで。



永岡 郁子

9月に入ってもいまだ、新型コロナウイルス感染が収束せず、いつになったら離ればなれに暮らしている家族や友人に会うことができるのか、人間関係が疎遠になるような気がします。

感染防止のため、当父母の会の行事もすべて中止となりました。

でも、落ち込んでいるわけではありません。

日々の生活の中、デイサービス、ショートステイ、リハビリ通院等利用させていただき、1日の終わりには、コロナに感染せずに今日も過ごせたと感謝しています。

また、障害者にかかわる訪問介護ヘルパーさん、ドクター、看護師、職員の方々、感染しないように努力していただき本当にありがとうございます。

今まで当たり前で過ごしてきた日々が、平和であったのだと感謝し、私達も1日1日”心”して暮らしていこうと思います。みんなで頑張りましょう。



主な行事(10月~12月)

★日帰りレクリエーション(大阪府受託事業)

- 10月3日(土) 月化粧ファクトリー工場見学(阪南市)
- 10月10日(土) 大阪国際空港(豊中市 伊丹空港)
- 11月21日(土)・28日(土) みかん狩り(岸和田市 新樹園)

★親・家族交流会(大肢連) ※4頁参照

10月27日(火) アートホテル大阪ベイタワー

★第158回理事会、第58回評議員会(大肢協)

11月20日(金) アネックスパル法円坂

★障害者週間啓発活動(大肢連)

12月3日(木)~9日(水)のうち1日 京橋駅前

★交野自立センター創立記念祭(大肢協)

12月5日(土) 交野自立センター

★国との懇談(大肢連)

未定 参議院会館